

算数

小学校 第6学年

OS・ソフト等

- iPad
- ロイロノート
- Qubena

<単元・題材名等>

分数のわり算

ねらい

1 dL のペンキで塗ることができる板の面積を求めるための式を考える活動を通して、数直線図に数量の関係を表せば、既習と同様に式に表すことができることに気づき、立式の理由を説明することができる。

主なICTの活用方法

- ・ 考えづくりの際、共有（同時に操作ができる）ノートを用いて、「着想」「根拠」「まとめ」「他の場合」の視点で考えを振り返ったり、手がかりを探したりする。
- ・ 終末段階において、問題作りを行い、お互いに解き合えるようにする。（答えをスクラッチ形式で見えなくする。）

ICTを通じて育成する資質・能力

- ・ ねらいに迫る視点で振り返ったり、考えづくりをしたりすることで、より筋道立った考えをつくることができる。
- ・ 問題作りを通して、本時の学びを振り返り、問題から結論まで筋道を立てて表現することができる。

実践の概要

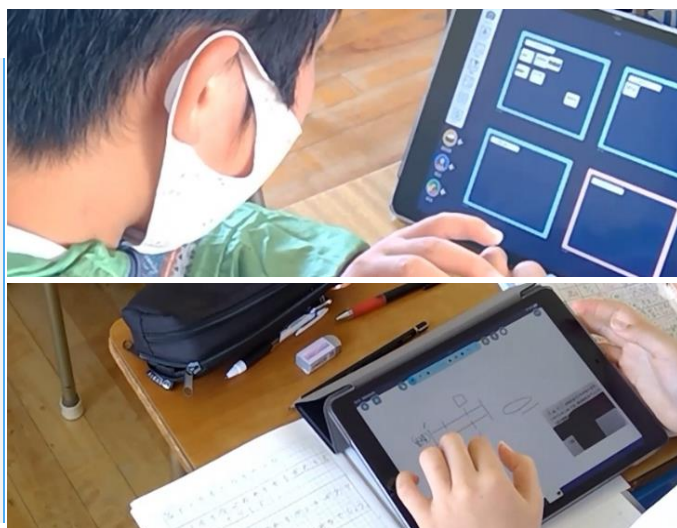
1 dL のペンキで塗れる板の面積を求める式を考える学習において、本時は、面積とペンキの量がともに分数となっており、分数÷分数の立式の理由について学習する場面である。

個人追究において、共有ノートにヒントコーナーを位置付ける。考えがもてた児童は、本時のつまづくポイント等を予想し、4つの視点（「着想」「根拠」「まとめ」「他の場合」）に関わる解決策を考え、ヒントコーナーへの記述やステップ解説の作成をする。また、どのように取り組んでよいか分からない児童は、ヒントコーナーを参考にして考えるようにする。

授業の終末段階では、問題作りを行う。各自で問題を作った後、数直線図とその図を基に考えた式を解答として記述し、その部分だけをスクラッチになるように塗りつぶして提出をする。問題を作ることで、理解が深まるだけでなく、他の児童の問題に積極的に取り組むことで習熟を図ることができるようにする。

児童の学びの様子

- 自分の考えづくりができたと思った児童が、算数の視点で自分の考えを振り返り、自分の考えの根拠となる部分に着目する姿があった。
- 分からないと思った児童が、共有ノートを開き、「数直線図」や「比例の関係」を手がかりに、考えづくりをすればよいと考えを進める姿に繋がった。
- 本時の学びを振り返り、数値を変えた場面で、筋道を立てて、立式までの過程を考える姿があった。
- 問題づくりが終わった児童が率先して仲間の作った問題に挑戦し、意欲をもって時間いっぱい取り組む姿があった。



指導のポイント

- 共有ノートには、算数の学びを深める視点で振り返ることができるよう項目を設定する。また、個の考えづくりの状況に応じて、教師が共有ノート等を活用して学びを深めるよう促す働きかけを行う。
- 終末段階では、個の理解の状況に応じた活動ができるよう、活動の進め方を児童と共通理解する。